



すもうをとる前にどうして塩をまくの

土俵を清めるという意味がある

日本では、昔から、塩はものを清めるはたらきがあると、信じられてきました。したがって、力士が塩をまくのは、土俵を清める意味があるのです。つまり、これから戦う土俵を清めるために、塩をまくわけです。

また、葬式から帰ったときに、自宅に入る前に振りかける塩にも、けがれを清めるという意味があります。

このようにして使う塩を、「清めの塩」といいます。

すべて特別な意味がある、すもうのしぐさ

テレビで大ずもうの中けいを見ていると、力士が大ずもうをとる前に、いろいろなしぐさをしているのに気づきますね。たとえば、ひしゃくで水をくんで、口をすすぎます。あれは、「ちからみず」といわれるもので、自分の体を清める意味があります。

土俵で片足を高く上げて、「しこ」をふみますが、あれは、地下にいる悪者をふみつぶすという意味なのです。

また、土俵のすみにしゃがんで、ぱんと手をたたいてから、手を広げる動作をしますが、これは、手に何も武器をもっていないことを、相手に示すためなのです。これらの意味を知っていて、すもうを見ると、おもしろいですね。（監修・青木 国夫）

